

2016年10月1日

次世代エネルギーワークショップの開催について

エネルギーワークショップ実行委員会

本年12月16日(金)・17日(土)、SMBCパーク栄(名古屋市中区錦)において、また2017年2月24日(金)・25日(土)、上智大学(東京都千代田区紀尾井町)において、全国各地から学生達が集まり、30年後の日本のエネルギー選択をテーマに徹底討議する「次世代エネルギーワークショップ」を開催します。

1. 背景

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故をきっかけに、長期を展望したエネルギー選択は、国にとっても、国民一人一人にとっても重要な課題となっています。また、昨年(2015年12月)、パリ協定が採択され、温室効果ガスの大幅削減の観点からも長期的視野に立ったエネルギー選択の議論が一層重要性を増してきました。

この議論には、国民の参加、特に未来社会の主役となる若い世代の参加が何よりも求められます。

2. ワークショップの目標

「次世代エネルギーワークショップ」は、「30年後のエネルギー選択を考える」をテーマとします。

エネルギー問題に関する基礎的な知識を習得し、専門家によるレクチャーと質疑応答を経て、多様な価値観・意見を有する同世代同士で議論を闘わせ、熟慮し、参加者たちが日本社会のリーダー的立場となっている30年後(概ね2050年)を想定して、その時点におけるエネルギー構成について確たる意見に到達することをめざします。

本プログラムは、参加・熟慮型のエネルギー教育プログラムです。

参加者で一つの結論をとりまとめ、対外的に働きかけることを目的とするものではありません。次代を担う若者たちに、立場により、価値観の違いにより、様々な意見があり、利害が錯綜するエネルギー問題について、他者の意見をよく聞き、熟慮し、自分の意見を主張し、噛み合った議論をとことん行い、そして自分としてコミットできる意見に辿り着く努力をする。こうした能力を身につけてもらいます。

3. 東京及び名古屋において開催

次世代エネルギーワークショップは、2013年度から3年間、東京において3回開催してきました。この間、ワークショップの目標を達成するための効果的な進め方を開発・試行し続け、参加者や大学の教員、更に第三者の専門家から一定の評価を得ています。

＜参加学生に対するアンケート結果より＞

2016年2月のワークショップに参加した学生は、一様に満足したという意見を寄せている。

多くの要素が錯綜した複雑なエネルギー問題を系統的に、かつ様々な観点から考え抜くことができた、専門領域の異なる他大学の仲間と対話を深めることができた、意見や価値観が異なる者同士が意見を闘わせることの重要性を学ぶことができた、などである。

一つの定型化された対話型エネルギー教育プログラムを生み出すことができたといえよう。

2016年度は、これまでの経験やノウハウの蓄積の上に立って、引き続き東京で開催するとともに、名古屋においても地元の自治体、関係団体、NPO、大学の協力を得て、「次世代エネルギーワークショップ」を開催します。なお、名古屋会場の開催協力及び来年度以降の開催の可能性の検討を目的として、名古屋においては、関係者で構成する連絡調整会議を設置しています。

4. 次世代エネルギーワークショップの概要

▶ 実施体制

主催……エネルギーワークショップ実行委員会（大学教員、研究者、NPO、産業界等のメンバーで構成）

共催……上智大学地球環境研究所、一般社団法人 環境政策対話研究所

文部科学省、環境省、資源エネルギー庁、関係自治体、なごや環境大学実行委員会、公的機関、民間団体等の後援、協力等の実施体制の構築を進めます。

▶ 日時、場所

	日時	場所
名古屋会場	2016年12月16日(金)・17日(土)	SMBC パーク栄 (名古屋市中区錦 3-25-20)
東京会場	2017年2月24日(金)・25日(土)	上智大学2号館17階会議室 (東京都千代田区紀尾井町 7-1)

▶ 参加者……大学生、大学院生、高等専門学校生、合計70名程度(両会場での合計)、
文系、理系、専門分野は問わず。日本語での討議能力のある留学生も含まれます。

▶ ワークショップの進め方

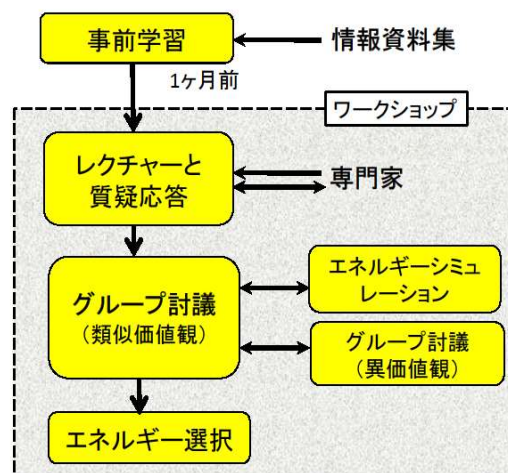
ワークショップの中心は、学生の対話であり、「5～8名程度のグループ討議」を基本とします。参加者が意欲的に持論を発言し、他者の意見に耳を傾け、活発に議論を闘わし、目標に向けて議論を進めます。ワークショップの進行は次の2つを柱とします。

A 参加者がエネルギーに関する「基礎情報を共有」すること

B 基礎情報の共有の上に立って、参加者が「グループ討議」を重ね、熟慮し、それぞれが確たる意見にたどり着くこと

ワークショップの流れは図のようになります。

- ① エネルギーに関する事前学習(情報資料集)。
- ② 専門家のレクチャーと質疑応答…エネルギー問題の本質を知り、疑問点の解消を目指す。
- ③ グループ討議…多様な意見や価値観を有する同世代の他者と議論を深め、エネルギー問題を自分ごととして熟慮し、自分の意見を探り求める。
- ④ エネルギーシミュレーション…討議結果が3E+S(経済効率性、安定供給、環境適合性、安全性)を満たすか等、定量的な検証を試みる。
- ⑤ 自分ごととしてコミットメントできる結論に到達
- ⑥ 発表……グループごとに、結論を発表



➤ ワークショップの成果(発表内容)

- ◆ 30年後の日本社会の電源構成(化石燃料、原子力、再生可能エネルギー等)
- ◆ エネルギー選択の前提とした 2050 年の日本の未来社会像
- ◆ エネルギー選択において重視した視点(経済、安定供給、環境、安全、技術、世代間公平性等)
- ◆ 30 年後のエネルギー需要・総電力量(どこまで省エネルギーを徹底すべきか)
- ◆ 討議において生じた疑問点、討議の論点・争点、残された課題等

➤ ワークショップの円滑な実施

- * 主催者は、公平・公正な運営管理に徹します。
- * 参加者の情報や知識に、できる限り共通基盤が形成されるよう、エネルギー問題に関する情報資料集(90 ページ程度)を作成し活用します。参加者にはワークショップの約 1 か月前に送付します。
- * ワークショップには、エネルギー・環境問題の専門家が同席し、視点・価値観の多様性に必要な手助け等を行います。
- * エネルギーシミュレーションを用います。知識学習やグループ討議を通じてたどり着いたエネルギーの選択について、3E+S の視点などに照らした検証や、矛盾点や検討の不足等の確認を行います。
注:シミュレーションは、(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)と(独法)国立環境研究所が開発した[2050 低炭素ナビ]に、本ワークショップのために微修正・調整を加えたシミュレーションモデルを活用します。
- * 討議は、予め用意された討議手法を用い、経験豊かなファシリテーターの進行に従って進めます。

5. 備考

- ・「次世代エネルギーワークショップ(2016)(東京開催)」は、三井物産環境基金の助成金、(一財)新技術振興渡辺記念会の研究助成、(一社)環境政策対話研究所、その他の多くの研究機関、NPO 法人、団体組織の支援や協力、連携の下に実施しました。
- ・ワークショップの結果は、HP など公表します。発言者が特定されないよう責任を持って措置します。
- ・個人情報の管理には十分な注意を払います。
- ・遠方からの参加者に対しては、旅費/宿泊費の支援をします。
- ・傍聴は、会場の都合から最大 20 名とさせていただきます(エネルギー・環境分野の教育・研究や人材育成に関わっている方等を優先します)。傍聴に際しては、静穏な雰囲気維持に協力頂きます。また、発言者の特定化につながるようなワークショップ後の活動等は一切お控え頂きます。

6. 今後のスケジュール

	名古屋会場	東京会場
参加学生の決定	2016 年 10 月中旬	2016 年 11 月下旬
参加者 事前アンケート	2016 年 11 月上旬	2016 年 12 月上旬
情報資料集の事前配布	2016 年 11 月上旬	2016 年 12 月下旬
ワークショップの開催 (期間中、2 度のアンケート実施)	2016 年 12 月 16, 17 日	2017 年 2 月 24, 25 日
結果のとりまとめ	2017 年 1 月以降	2017 年 3 月以降
報告書の作成・公表	2017 年 5 月	

<参考>

2016 年度は、次世代エネルギーワークショップの実践経験とノウハウの蓄積の上に立って、対象を社会人にまで拡大したエネルギーワークショップの開催や、複数の大学での講義においてエネルギーワークショップの手法を応用した教育プログラムも実践します。

ファシリテーションの人材育成ツールの開発や、エネルギーシミュレーション技法の改善等を引続き進め、様々な主体による実施を可能とするための支援システムの構築など、若者を対象としたエネルギー教育プログラムの一層の普及定着に向けて取り組んでいきます。

エネルギーワークショップ実行委員会事務局

上智大学 地球環境研究所 環境政策対話推進センター 柳下、植田
〒102-0081 東京都千代田区四番町4 (上智大学市ヶ谷キャンパス)

Tel : 03-3238-4088 E-mail : sophia.ngews@gmail.com